

大学院を卒業後、我が国の失明原因第一位である緑内障の克服をライフワークと志し、二〇〇六年より米国Duke大学に二年間留学しました。ここでは緑内障の基礎研究、特にROCK阻害薬などの細胞骨格制御薬が眼圧調節に及ぼす影響を調べました。留学中に親しくなった研究者とは今でも交流があり、緑内障の基礎研究の分野で切磋琢磨する良い関係が続いています。

帰国後は谷原秀信教授(当時)のご指導のもと、緑内障を中心とした手術の修練に努めるとともに、緑内障の臨床研究および基礎研究に没頭してきました。様々な方のご尽力により、二〇一四年にROCK阻害薬は緑内障治療薬として承認され、多くの方の眼圧下降に寄与してきました。しかしながら、まだまだ緑内障の克服というゴールは遠く、さらなる革新的な発想と取り組みが必要です。

教室としては、世界レベルを意識しながら、地域医療にきちんと貢献できる人材を育てていきたいと思えます。そのため、研究者の視点を持ちながら臨床の知識と技術を伸ばしていくことが必要です。そして、患者さんに信頼されるところに、自ら世界に向けて情報を発信し、医療の進歩に貢献できるような医師を育てる組織でありたいと思います。しかしながら、時代の流れもあって、自分たちの世代が経験してきたような教育方法は

適用できません。現代的な感覚を持って、しつかりした人材育成のシステムを構築していくことが私の使命であると考えています。皆様には今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

**熊本大学大学院生命科学研究部整形外科学講座教授
就任のご挨拶**



熊本大学大学院生命科学研究部
整形外科学講座教授
宮本 健史

平成三十一年四月一日付で熊本大学大学院生命科学研究部整形外科学講座第五代教授を拝命いたしました宮本健史と申します。令和に時代が変わり、平成最後の教授就任となりましたが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は熊本県立熊本高等学校卒業後、熊本大学医学部に入學、当時熊本大学医学部整形外科学教室を主宰されておりました高木克公教授(現名誉教授)が部長を務めておられました硬式テニス部に入部、平成六年に熊本大学医学部を卒業後に整形外科学教室に入局いたしました。大学院ならびに関連病院で整形外科全般にわたる幅広い研修を受け、特に骨粗鬆症

を背景とした高齢者の外傷性疾患を多く担当したこともあり、大学院では須田年生教授(現熊本大学国際先端医学研究機構センター長)が主宰されておりました分化制御学教室でRegulation of Osteoclast Differentiationの学位研究で平成十三年に医学博士を取得しました。

その後、学術振興会の特別研究員(PD)に採択され、引き続き須田先生のもとで骨代謝に関する研究を継続、平成十四年に須田先生が慶應義塾大学発生の分化生物学教室の教授として異動されるのに伴い、一緒に上京いたしました。慶應義塾大学異動後、すぐに慶應義塾大学の整形外科学教室との共同研究を開始した

縁で、平成十六年からは慶應義塾大学整形外科学教室に異動、慶應義塾大学整形外科学教室の大学院生を中心とした研究指導を行いつつ、脊椎・脊髄外科の外科治療、人工関節治療などの整形外科医療の研鑽を積み、保存治療としては骨粗鬆症の専門診療を実施して参りました。また平成二十七年からは、東京大学整形外科学教室の特任准教授・客員研究員を兼任させていただき、大学院生等の指導に当たらせていただきました。

慶應義塾大学整形外科学教室に在籍している間も、熊本大学整形外科学教室の同門会員として、東京からはほぼ毎年同門会には参加しておりました。慶應義塾大学で十七年間を過ごす間に、熊本大学整

形外科学教室の教授は高木先生から先代の水田博志先生(現名誉教授、熊本市病院事業管理者)に引き継がれ、今回平成三十年三月をもって退官されました水田先生の後任として、赴任させていただきましたことになりました。

熊本大学整形外科学教室は、これまで先輩先生方が積み上げてきた素晴らしい伝統を有し、また伝統の中にも新たな治療器具や治療法の開発を行うなど、伝統と挑戦が調和した教室として国内外で高い評価を受けて参りました。私もこれら教室が積み重ねてきた伝統を継承しつつも、さらに発展させていければと思っております。今日のグローバル化の波の中で、単独の大学だけではなく、複数の大学と連携し、より大きなことへ挑戦する時代へと変遷してきております。幸いにも、慶應義塾大学および東京大学の整形

外科教室との連携は、私が熊本大学へ異動後も連携を継続させていただいております。熊本県内の整形外科医療の充実とレベルアップはもちろん、世界へ向けた新たな整形外科医療の提案を発信すべく、教室員一丸となって熊本の整形外科医療および整形外科学の発展に向けた教室作りと人材の養成に努めて参りますので、皆様の変わらぬご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。